

霧が丘地区地域福祉保健計画 意見交換会の意見をまとめてみました。 どうぞご検討下さい！



地域福祉保健計画地区別意見交換会って？

平成17年度に作成される地域福祉保健計画を「できるだけ地域の意見を吸い上げて現実的な計画にしよう」という趣旨で11地区で開催しました。

霧が丘地区はいつどこで行われたの？

平成16年8月1日(日)・9月12日(日)の2回にわたり霧が丘第3小学校を会場にして行いました。

だれが何人集まって話し合われたの？

1回目43名 2回目29名 地域の様々な立場の方が参加しました。

どんな話し合いがすすめられたの？

1回目は地域で困っている様々な問題、課題をあげてもらいました。

2回目は1回目で出された問題を具体的にどんなアイデアで解決できるかを話し合ってみました。

1, 2回とも8人程度のグループディスカッション方法で、できるだけ話しやすい雰囲気とどんな意見も尊重しようというルールで行いました。

災害時の高齢者対策のアイデアが出ました

困っていること 一人暮らしの高齢者などの情報がなく、災害時安全に避難できるか心配だ。



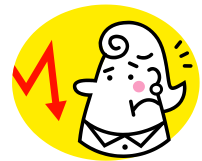
こんなアイデアが出ました

- 1 プライバシーの関係で役所から情報をもらえないので、自宅にこちらから出向き情報を得る。高齢者のためにやってあげるという態度でなく、まず人間関係を作る。
- 2 回覧等で防災上の趣旨を十分伝達の上、希望者(本人や家族の了解)のみ、登録してもらう。プライバシーに十分留意して調査する。
- 3 把握した情報については、民生委員と自治会が協力してデータベースを作る。
- 4 高齢者・子ども・障害者等のための地域安全マップの作成。
- 5 高齢者「おんぶ(救出)」作戦を若者中心に準備する。

高齢者等の孤立化を防止するアイデアが出ました

困っていること

高齢者や障害者が気軽に参加できる行事や情報が少なく、
高齢者などが孤立しがち



こんなアイデアが出ました

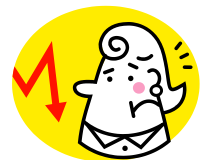


- 1 高齢者や障害者などが無理せず安全に参加でき地域の人とも交流できる健康行事や集まる場を作る。障害児の一時預かりの場として、学校の空き教室が利用できると良い。
- 2 ささえあい会議において、高齢者向けに霧が丘マップを作成している。お散歩マップだが、病院・銀行・トイレなどの参考になる情報が盛り込まれている。
- 3 高齢者などがどこに住んでいるか把握し、お互い知り合う。
- 4 障害者とその家族の支援について目を向けていこう。
- 5 高齢者と小学生がふれあえる会を学校と協力して行っている。
- 6 高齢者を対象とした行事を年間行事として実施している。
- 7 団地の集会所などのバリアフリー化が必要。
- 8 近くの公園などを使って健康づくりなどやれることをやってみよう。

地域の中で、温かい心を持って子どものしつけや教育を考えるためのアイデアが出ました

困っていること

地域の子どもの年齢を超えたふれあいがなくなり、子どもに声をかけたりすることが少なくなっている。
また、子どもの遊び場が少なくなっている。



こんなアイデアが出ました

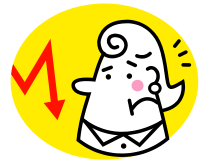


- 1 子どもが気軽に遊べる場をつくる。公園でキャンプができるといい。
- 2 若者の居場所づくりが必要。横浜市のモデル的取り組みに参加したい。
- 3 子供会機能の見直しが必要。また、子育てサロンなどの活動に関心を持っていく。
- 4 地域で遊んでいる子ども、一人でいる子どもに大人から率先して声をかける。
- 5 学校と連携して、小・中学校の児童・生徒との継続したふれあいの会を持ちたい。
- 6 小学生の頃からボランティアに心を開けるようにしていく。
- 7 自治会で行事を行うとき、主催者側に中・高校生を募る。(若者に伝統を伝える)

地域のつながりを強くするアイデアが出ました

困っていること

地域のつながり感が希薄で、「自治会の活動がわからない」「地域にどんなグループがあってどんな活動をしているかわからない」... 地域の活動に参加するきっかけづくり、地域活動を通じた良い人間関係づくりが大切なのにこんなアイデアが出ました



あいさつのできる人間関係、世代間交流

- 1 積極的にオハヨウ、コンニチハ、コンバンワの言葉をかける。
- 2 地域の催し物、行事に参加し、顔見知りになり、そこからあいさつが生まれる。
- 3 スーパーの敷地を地域に開放してもらう。商店街を魅力的なものにしていく。
- 4 公園などで高齢者が子どもを見守れる環境作り。親しみやすく、居やすい雰囲気。
- 5 子どもを連れて草むしりに出る。
- 6 今回のような話し合いを自治会単位で続けていきたい。
- 7 一方的に「する」「される」ではなく、それぞれが役割を持って生活できる霧が丘に。
- 8 防災や防犯などの情報のうまみを見つけられる交流の場にする。

地域活動やボランティア

- 9 体験豊富な退職者世代のマンパワーの発揮。霧が丘にシルバー人材センターを作る。
- 10 送迎ボランティア（ボランティアのコーディネーターも）、防犯パトロールなどの活動。
- 11 老人クラブ活動の見直し。
- 12 地域のボランティア活動を盛んにすれば近所との交流も活発になるのでは。

住民交流の常設の場づくり（情報を得る、交流する、ネットワークを作る場）

- 13 地域の常設の場が絶対必要。住民交流があるだけでも協力体制ができ町は良くなる。
- 14 地域交流の場を持つには、地域の自助努力と行政支援が必要。行政機能との合体等。
- 15 管理面が大変であり、有料を基本とする考え方への転換が必要。
- 16 学校の空き教室、地域の空きビルや施設、団地の集会所等を活用する。

参加者が考えてくれた地域福祉保健計画の霧が丘地区キャッチフレーズ（将来像）です。

「お互いに助け合い、役割を持って生活していけるようにしよう」

「地域のふれあい、支え合いはあいさつから」「いつまでも住み続けたい町に」

「地域のつながりは子どもの頃から！地域のことを知ろう！」